

イーストスプリング 韓国株式オープン

追加型投信／海外／株式

第11期(決算日:2016年10月31日)

作成対象期間(2015年11月3日～2016年10月31日)

第11期末(2016年10月31日)	
基準価額	9,864円
純資産総額	283百万円
(2015年11月3日～2016年10月31日)	
騰落率	△21.6%
分配金合計	0円

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング韓国株式オープン」は、2016年10月31日に決算を行いました。

当ファンドは、主として韓国の金融商品取引所に上場されている株式を主な投資対象とする投資信託証券に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

当期につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記[お問い合わせ先]ホームページアドレスにアクセス⇒上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を選択

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

【お問い合わせ先】

電話番号:03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

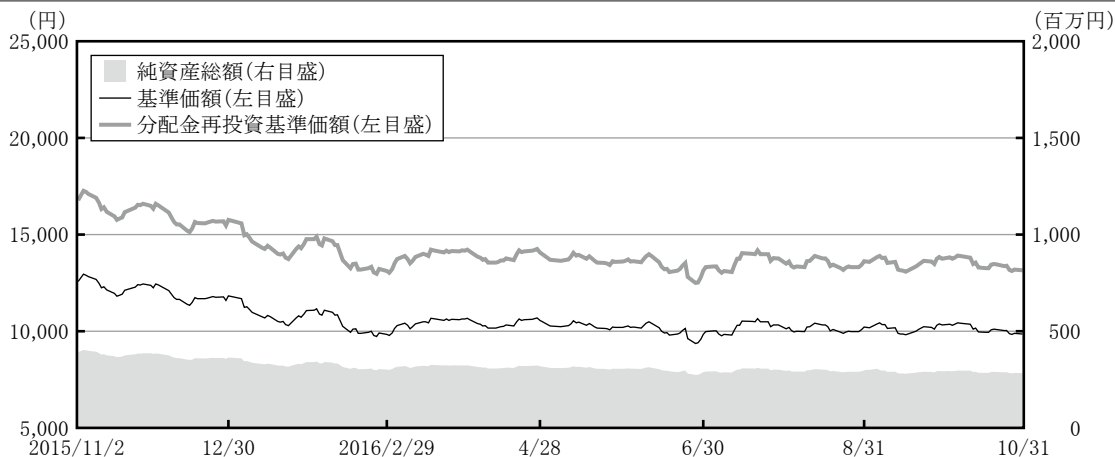
ホームページアドレス: <http://www.eastspring.co.jp/>

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

基準価額等の推移について(第11期:2015年11月3日から2016年10月31日まで)



第11期首	12,580円
第11期末	9,864円(既払分配金0円)
騰落率	△21.6%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

期首から2016年2月中旬まで、原油価格の下落や中国株安などを背景に韓国株式市場は軟調となり、為替市場でもウォン安円高が進行したことで基準価額は下落しました。その後は原油価格の回復や米国の利上げペース鈍化の見通しを受けて株式市場は反発に転じ、基準価額も若干持ち直す局面もありましたが、期末までほぼ横ばいで推移し、期首比では下落して期末を迎えました。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2015/11/3 ～2016/10/31		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	117円	1.101%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、10,661円です。
(投信会社)	(34)	(0.317)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(80)	(0.752)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.032)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 有価証券取引税	2	0.020	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(投資信託証券)	(2)	(0.020)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用	23	0.219	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(12)	(0.108)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(3)	(0.024)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(9)	(0.086)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	(0)	(0.001)	余資運用に係る費用(マイナス金利相当額)
合計	142	1.340	

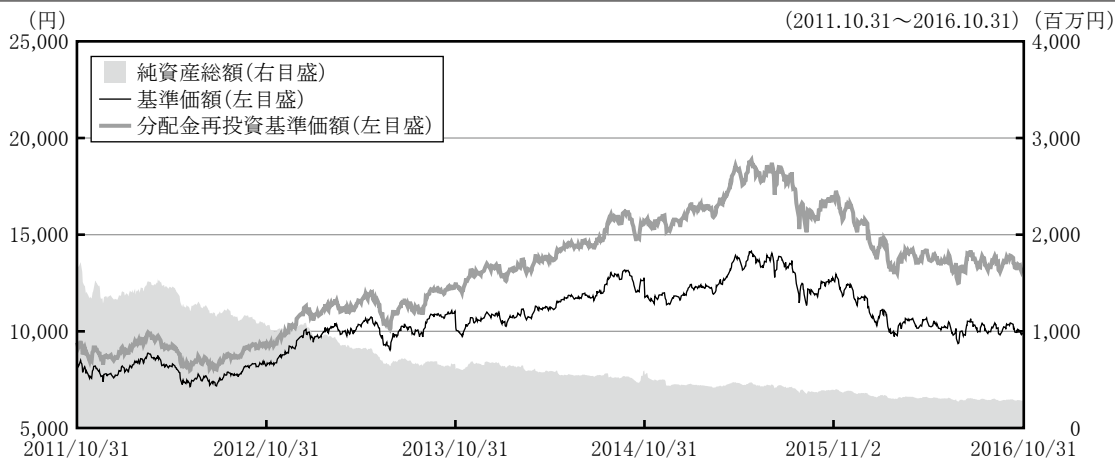
(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

決算日		2011/10/31	2012/10/31	2013/10/31	2014/10/31	2015/11/2	2016/10/31
基準価額	(円)	8,417	8,264	10,186	11,753	12,580	9,864
期間分配金合計(税込み)	(円)	—	0	1,000	1,000	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	△1.8	35.4	25.2	7.0	△21.6
純資産総額	(百万円)	1,720	1,053	605	550	391	283

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

○海外株式市況

期首から2016年2月中旬までの韓国株式市場は、原油価格の下落や中国の景気減速懸念による世界的な株安を背景に軟調な展開が続きました。2月中旬以降は原油価格の回復や米国の利上げペースの鈍化見通しから株式市場は反発に転じました。6月に行われた英国のEU離脱の賛否を問う国民投票において離脱派が勝利したことで世界経済への不透明感が高まり株式市場は下落する局面もありましたが、米国の利上げ観測の後退や資源価格が安定的に推移したことなどを受けて堅調に推移しました。その後、北朝鮮による核実験実施やサムスン電子のリコール発表が嫌気される場面もありましたが、株式市場は期末まで概ね横ばいで推移しました。

○為替市況

韓国ウォンは、2016年2月中旬までは原油価格の下落や中国の景気不安などを背景に対円、対米ドルともに下落しました。その後、韓国ウォンは持ち直す場面も見られましたが、6月の英国国民投票を前に再度下落に転じ、7月以降は米国の利上げペースの鈍化見通しから対米ドルで堅調に推移した一方、対円では日銀が追加金融緩和を見送ったことなどを受けて円高が進行し、期末まで軟調な推移が続きました。

○国内債券市況

2016年1月末の日銀によるマイナス金利導入後、日銀の長期国債買い入れによる需給逼迫化を背景に日本国債市場は7月末にかけて底堅い展開(利回りは低下)となりました。しかし、7月末の日銀の金融政策決定会合で追加金融緩和が見送られ、さらにこれまでの金融緩和政策を総括的に検証するとの決定を受けて、国債買い入れ減額への警戒感から債券価格は大幅に下落(利回りは急上昇)しました。9月、日銀は金融緩和のための新しい枠組みとして「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定したことから市場に安心が広がり、期末まで狭いレンジでの推移となりました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

主要な投資対象の一つであるイーストスプリング・インベストメンツ・インダストリー・リーダース・セキュリティーズ・インベストメント・トラスト[エクイティ](以下「インダストリー・リーダース・セキュリティーズ[エクイティ]」)ということがあります。)の組入比率を高位に保つよう運用しました。

○インダストリー・リーダース・セキュリティーズ[エクイティ]

韓国株式を主要投資対象とし、割安と考える銘柄に分散投資を行い、リスクの低減を図りつつベンチマークである韓国総合株価指数(KOSPI)を上回るリターンを獲得を目指して運用を行いました。

当期はインターネット株、物流株の保有や自動車、電機部品セクターにおける銘柄選択がプラス要因となった一方、化学、建設、証券セクターにおける銘柄選択がマイナスに作用しました。

○イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるBofAメリルリンチ国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。期首から7月末まで金利が低下傾向(債券価格は上昇)となったことから、プラスのリターンとなりました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (1万口当たり、税引前)

項目	第11期	
	2015年11月3日 ～2016年10月31日	
当期分配金 (円)		—
(対基準価額比率) (%)		—
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		9,602

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2)当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3)—印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○当ファンド

主要な投資対象の一つであるインダストリー・リーダース・セキュリティーズ[エクイティ]の組入比率を高位に保つことを基本とします。

○インダストリー・リーダース・セキュリティーズ[エクイティ]

韓国株式市場は主要先進国の金融政策や原油価格の動向といった外部要因に加えて、韓国の政治スキャンダルなど国内要因により変動が大きくなることが想定されます。また、通貨ウォン高や商品価格反発の影響により、国内企業の業績動向は2016年上期と比べて鈍化する恐れがあり、状況を注視する必要があります。構造的な成長トレンドにある銘柄を中心に投資する戦略を維持していますが、長期的な企業価値の水準と比較して株価が大幅に落ち込んでいる銘柄にも注目しています。

○イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)

日本国債はやや買われすぎの状況であり、長期的には米国債に追随して利回りが上昇するとみています。今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行い、ベンチマークであるBofA Merrill Lynch 国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

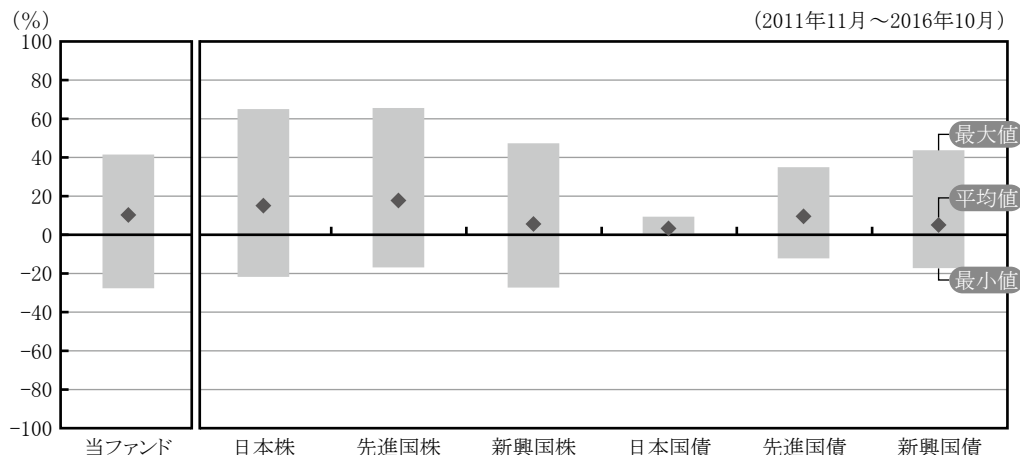
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	原則として無期限(2006年1月31日設定)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主に韓国の金融商品取引所に上場されている株式に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資信託「イーストスプリング・インベストメンツ・インダストリー・リーダース・セキュリティーズ・インベストメント・トラスト[エクイティ]」の韓国ウォン建て受益証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)」の受益証券(振替受益権を含みます。)を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 <ul style="list-style-type: none">・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。・株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時(10月31日。休業日の場合は翌営業日。)に、基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	10.1	15.0	17.7	5.4	3.1	9.4	4.9
最大値	41.5	65.0	65.6	47.3	9.3	34.9	43.7
最小値	-27.8	-22.0	-17.1	-27.5	0.5	-12.3	-17.4

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2011年11月から2016年10月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

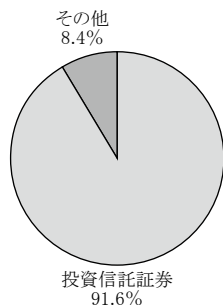
○組入ファンド

(組入銘柄数:2銘柄)

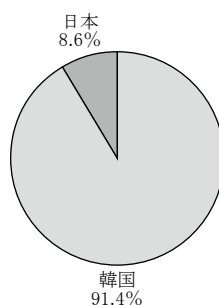
ファンド名	第11期末 2016年10月31日
イーストスプリング・インベストメント・インダストリー・リーダーズ・セキュリティーズ・インベストメント・トラスト[エクイティ]	91.3%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)	0.2%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

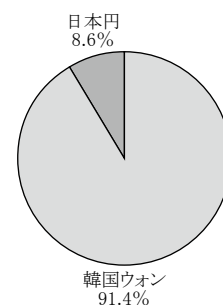
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

項目	第11期末 2016年10月31日
純資産総額	283,675,731円
受益権総口数	287,575,924口
1万口当たり基準価額	9,864円

* 当期中において追加設定元本額は25,044,753円、一部解約元本額は49,074,576円です。

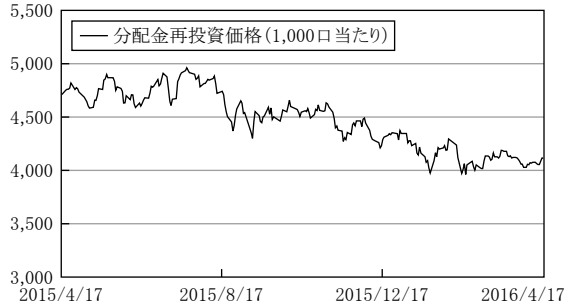
組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・インベストメンツ・インダストリー・リーダーズ・セキュリティーズ・インベストメント・トラスト[エクイティ]

○基準価額の推移

(計算期間 2015年4月18日～2016年4月17日)

(ウォン)



○1万口当たりの費用明細

(計算期間 2015年4月18日～2016年4月17日)

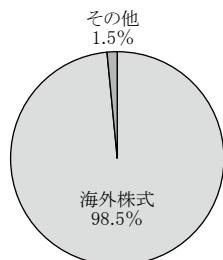
当該期間のFinancial Statements (監査済み)には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

○組入上位10銘柄 (組入銘柄数: 39銘柄)

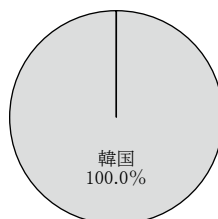
(2016年4月17日現在)

順位	銘柄名	業種	国・地域	比率
1	Samsung Electronics	情報技術	韓国	12.8%
2	Korea Zinc	素材	韓国	8.6%
3	AmorePacific	生活必需品	韓国	8.0%
4	AmorePacific Group	生活必需品	韓国	6.7%
5	Hanssem	一般消費財・サービス	韓国	5.9%
6	Hana Tour	一般消費財・サービス	韓国	5.3%
7	CJ	生活必需品	韓国	5.1%
8	NAVER Corp	情報技術	韓国	5.1%
9	S1 Corporation	資本財・サービス	韓国	4.1%
10	Korea Aerospace Industries	資本財・サービス	韓国	3.9%

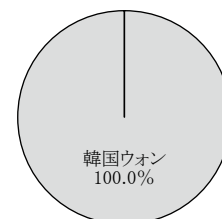
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの(監査済みおよび同時点の関連データを含む)を使用しています。
 (注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)

(計算期間 2015年2月26日～2016年2月25日)

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

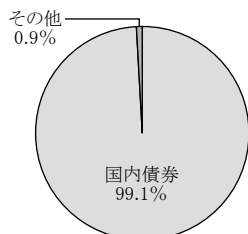
項目	金額
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	23円 (15) (2) (6)
(b) その他費用 (監査費用)	4 (4)
合計	27

○組入上位10銘柄

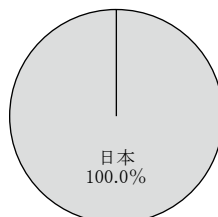
(組入銘柄数:26銘柄)

	銘柄名	種別	国・地域	比率
1	第285回利付国債(10年)	国債	日本	7.5%
2	第80回利付国債(20年)	国債	日本	6.4%
3	第75回利付国債(20年)	国債	日本	5.5%
4	第63回利付国債(20年)	国債	日本	5.2%
5	第48回利付国債(20年)	国債	日本	5.2%
6	第42回利付国債(20年)	国債	日本	5.0%
7	第67回利付国債(20年)	国債	日本	4.8%
8	第311回利付国債(10年)	国債	日本	4.8%
9	第298回利付国債(10年)	国債	日本	4.8%
10	第284回利付国債(10年)	国債	日本	4.6%

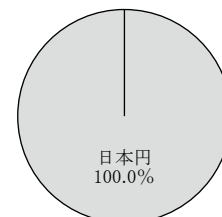
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年2月25日現在のものです。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

指数に関して

○当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)」のベンチマークについて

- ・バンクオブアメリカ・メリルリンチは、バンクオブアメリカ・メリルリンチのインデックスを何ら変更することなく使用することを許諾しており、バンクオブアメリカ・メリルリンチのインデックスに関し何らの表明をするものではなく、バンクオブアメリカ・メリルリンチのインデックスまたはそれに含まれ、関連しもしくは得られるデータの適合性、内容、正確性、適時性および完全性について保証するものではありません。また、バンクオブアメリカ・メリルリンチはイーストスプリング・インベストメンツ株式会社によるバンクオブアメリカ・メリルリンチのインデックスの使用に関し一切の責任を負うものではなく、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社またはその商品またはサービスについて何らの支持、是認または推奨をするものではありません。

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・NOMURA-BPIは、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- ・JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。